この七条大橋の自己紹介にたいして、私たちは、どうしたあげたら、エエとお思やすか？マダ２年ほど時間が有ります。市民力で「エエ案」を考えてあげませんか？！。裏面にご提案やお考えを書いてお知らせ下さい。

# 七条大橋の自己紹介

私は、七条通の鴨川に架かる七条大橋です。

1911年（明44）から1913年（大2）の17ヶ月間、七条通市営電車軌道工事に併せた拡張工事の時に生まれました。建設費用は18万2千円。その内の、左右の高欄（★）だけで1万3千円だったのです。（先代の木橋は明治16年生）

開通式は（大2）4月14日、見物人は仮橋や橋の両岸詰めに山のように集り、当時の井上京都市長の式辞、地域のお年寄り夫妻を先頭に、皆山・一橋・菊浜・貞教の生徒３５００人を教員が引率して橋中央で「万歳三唱」をしました。当時は子沢山の時代でした。

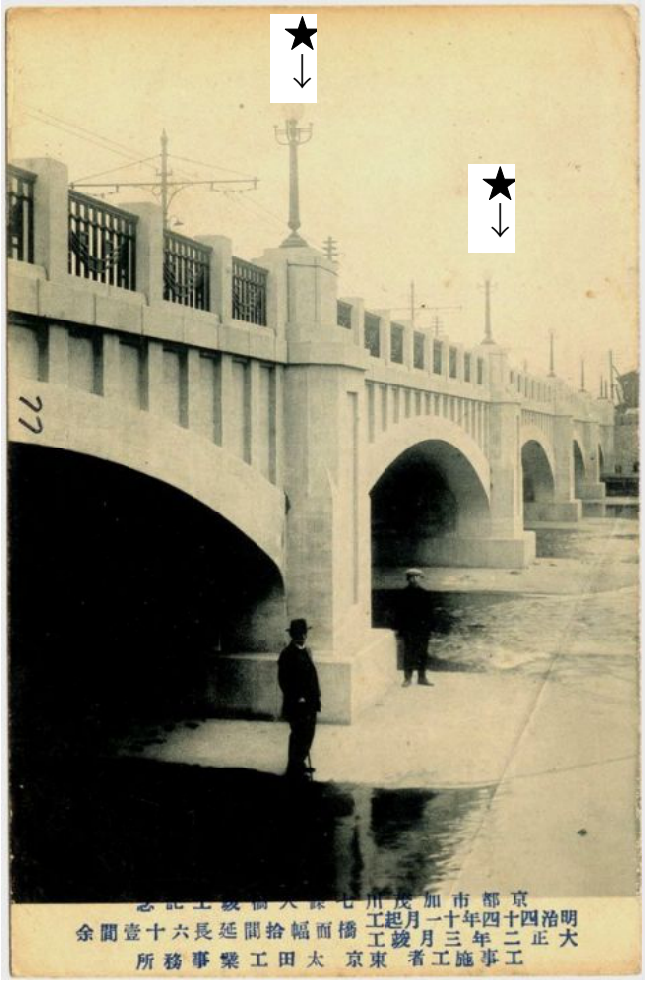
その時代は「日清・日露」戦争に勝利し、1905年（明38）伏見に陸軍16師団が出来、京都～伏見を結ぶ師団街道が1911年（明44）建設され、陸軍は京都市への入口橋として頑丈な橋を必要としたのでしょう。その頑丈さで、この97年間台風洪水で鴨川に架かる橋で一度も流されず破損もせず、人々や市電や自動車が私の「背中」を利用出来たのです。

私はひと言も誉めて欲しいとは言いませんが、密かにそれを「誇り」にしています。

前の戦争で金属類回収令が1941年（昭16）制定され、私の欄干と高欄は取り外され兵器になりました。欄干は「木製」になり1961年（昭36戦後16年）になってヤット「今の姿」になったのです。高欄はいまもそのママの姿で、大正ロマンの雰囲気があった高欄は、古い写真の中にしかありません。

それだけではありません。**私の歩道はアスファルト**舗装、弟の塩小路橋の歩道はもっと上等。何時も私は忘れられているとひがん（僻む）でいます。

この分では自分から言わないと「百歳」も無視されそう。背中を通る人や車から足元は見えないのしょうが、セッションスタイルの橋は少ないので「土木遺産」になってます。元の姿の**高欄も付けて欲しい、百年の身体汚れ（★）**も一度も落したいが、ワテ（自分）では出来まへんし助けて欲しい。これだけは自己紹介の序で言わして貰いました。おおきに。序でに七条通の電柱も地中化されたら嬉しいなぁ。




七条大橋の南側・　↓橋脚やその土台は黒く汚れている

七条大橋の東北側から南側をみた写真　↓・汚れ方は同じ。

# 七条大橋の100歳の誕生日が近づいた。貴方は、その橋にに何をしてあげられますか？

京都は古い町、年行事として、お寺や神社で、はり(針)供養、くし（櫛）供養など色々の「お道具の供養」が行われてきました。橋も人間が造った道具の一つです。

橋は、老若男女、思想信仰、貧富貴賤を問わず、自動車や電車、時には超重い戦車まで、鴨川を渡らせる役目を務めました。橋は自分のことは言わず、公平無私で１００年近く。

そんな姿勢で、幾多の洪水にも耐え、建設時の欄干や高欄が、兵器用に取られても、姿勢は変えず、自らの背中を使わせてくれました。
貴方の生れるまえからズート１００年近く。

橋が言葉を使えたら、【人間とは恩知らず、身勝手な川上に置けない動物だ】とさげすむかもしれません。

私たちはそう言われても平気でいられますか？
京都人として、否人間として！
間も無く１００歳の七条大橋に、貴方が出来るはありませんか？

## それでも京都のイケズを通しますか？！

文責：集西楽サカタニ　　取締役相談役＝略して隠居
酒谷義郎(七十七歳)

お返事をお待ちします。　FAX：075-561-9821　　info@soske.jp
TEL：075-561-7974
面談でも結構ですが１日前電話を